

# 身体拘束適正化のための指針

特定非営利活動法人

栗原市障害者就労支援センター

## 1 身体拘束等の適正化に関する基本的な考え方

### (1) 施設としての理念

#### ① 身体拘束の原則禁止

身体拘束は利用者の生活の自由を制限することで重大な影響を与える可能性があります。本施設（特定非営利活動法人 栗原市障害者就労支援センター）は、利用者お一人お一人の尊厳に基づき、安心・安全が確保されるように基本的な仕組みをつくり、施設を運営しますので、身体的・精神的に影響を招く恐れのある身体拘束は、緊急やむを得ない場合を除き原則として実施しません。

#### ②身体拘束に該当する具体的な行為

- ①本人に許可なく面談室など個室に閉じ込める。
- ②出入口に立って閉じ込める動作をする。
- ③見下ろして一方的に話しをする。
- ④脅し、侮辱など言葉の態度、無視、嫌がらせなどによって精神的苦痛を与え、身動きを制限する。
- ⑤行動を落ち着かせるために、向精神薬の過剰な服薬を勧める。
- ⑥柱や椅子やベットに縛り付ける。

#### ③目指すべき目標

3要件（切迫性・非代替性・一時性）の全てに該当すると委員会において判断された場合、本人・ご家族への説明・確認を得て拘束を実施する場合がありますが、その場合も利用者の態様や介護の見直し等により、拘束の解除に向けて取り組みます。

### (2) 施設としての方針

次の仕組みを通して身体拘束の必要性を除くよう努めます。

#### ①利用者の理解と基本的なケアの向上により身体拘束リスクを除きます。

利用者お一人お一人の特徴を日々の状況から十分に理解し、身体拘束を誘発するリスクを検討し、そのリスクを除くため対策を実施します。

#### ② 責任ある立場の職員が率先して施設全体の資質向上に努めます。

管理者・施設長・職員が率先して施設内外の研修に参加するなど、施設全体の知識・技能の水準が向上する仕組みをつくります。

#### ③ 身体拘束適正化のため利用者・ご家族と話し合います。

ご家族と利用者本人にとってより居心地のいい環境・ケアについて話し合い、身体拘束を希望されても、そのまま受け入れるのではなく、対応を一緒に考えます。

## 2 身体拘束等適正化のための体制

次の取り組みを継続的に実施し、身体拘束適正化のため体制を維持・強化します。

### (1) 身体拘束適正化検討委員会の設置及び開催

身体拘束適正化検討委員会（委員会）を設置し、本施設で身体拘束適正化を目指すための取り組み等の確認・改善を検討します。過去に身体拘束を実施していた利用者に係る状況の確認を含みます。委員会は三ヶ月に一度以上の頻度で開催します。

特に、緊急やむを得ない理由から身体拘束を実施している場合（実施を開始する場合を含む）には、身体拘束の実施状況の確認や3要件を具体的に検討します。

(2) 委員会の構成員

サービス管理責任者、各事業所内の職員で構成する。

(3) 構成員の役割

- ・招集者：サービス管理責任者
- ・記録者：委員の中で当番制で行う。

(4) 委員会の検討項目

- ① 前回の振り返り
- ② 3要件（切迫性、非代替性、一時性）の再確認
- ③ 意識啓発や予防策等必要な事項の確認・見直し
- ④ 今後の予定（研修・次回委員会）
- ⑤ 今回の議論のまとめ・共有

(5) 記録及び周知

委員会での検討内容の記録様式(参考様式①「身体拘束適正化委員会議事録」)を定め、これを適切に作成・説明・保管するほか、委員会の結果について、職員その他の従業者に周知徹底します。

3 身体拘束等適正化のための研修

身体拘束適正化のため介護職員、生活相談員その他の従業者について、職員採用時のほか、年二回以上の頻度で定期的な研修を実施します。

研修の実施にあたっては、実施者、実施日、実施場所、研修名、内容(研修概要)、を記載した記録を作成します。

4 緊急やむを得ず身体拘束を行わざるを得ない場合の対応

(1) 3要件の確認

- ・切迫性(利用者本人又は他の利用者等の生命又は身体が危険にさらされる可能性が著しく高いこと)
- ・非代替性(身体拘束を行う以外に代替する介護方法がないこと)
- ・一時性(身体拘束が一時的なものであること)

(2) 要件合致確認

利用者の態様を踏まえ身体拘束適正化委員会が必要性を判断した場合、限定した範囲で身体拘束を実施することとしますが、拘束の実施後も日々の態様等を参考にして同委員会で定期的に再検討し解除へ向けて取り組みます。

(3) 記録等

緊急やむを得ず身体拘束を行わざるを得ない場合、次の項目について具体的にご本人・ご家族等へ説明し書面で確認を得ます。

- ・拘束が必要となる理由（個別の状況）
- ・拘束の方法（場所、行為（部位・内容））
- ・拘束の時間帯及び時間

- ・特記すべき心身の状況
- ・拘束開始及び解除の予定（※特に解除予定を記載します）  
※参考様式②「緊急やむを得ない身体的拘束に関する説明書

#### 5 身体拘束等に関する報告

緊急やむを得ない理由から身体拘束を実施している場合には、身体拘束の実施状況や利用者の日々の様子(時間や状況ごとの動作や様子等)を記録し、適正化委員会で拘束解除に向けた確認(3要件の具体的な再検討)を行います。

※参考様式③「緊急やむを得ない身体拘束に関する入居者の日々の様子記録」

#### 6 ご利用者等による本指針の閲覧

本指針は、本施設で使用するマニュアルに綴り、全ての職員が閲覧を可能とするほか、利用者やご家族が閲覧できるように施設への掲示や施設ホームページへ掲載します。

令和 4年 4月 1日